

平成30年度
教育に関する事務の管理及び執行の
点検及び評価報告書

令和元年8月21日
長岡市教育委員会

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

1 点検及び評価の趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年度から教育委員会は毎年度、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすために、平成30年度の長岡市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行った結果を、長岡市教育委員会事務評価委員会の意見等を付して、報告するものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関連条文抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の方法

(1) 点検及び評価の対象

点検及び評価は、長岡市教育委員会が執行している事務・事業のうち、「長岡市教育振興基本計画」（平成28年4月策定）に掲げた施策を中心に行いました。

(2) 点検及び評価の手順

平成31年4月から令和元年8月にかけて、平成30年度に長岡市教育委員会において執行した事務について、次の手順で点検及び評価を行いました。

教育委員会事務局における点検の実施



教育委員への点検内容の報告



事務評価委員会による点検及び評価



教育委員会による評価報告書の決定



市議会への報告及び公表

長岡市教育委員会事務評価委員会 委員

委員長 青柳 良一（学校教育・社会教育関係）

副委員長 渡辺 美子（学校教育関係）

委員 高野 真規（子育て支援関係）

【目 次】

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

1	教育委員会 4 月定例会（平成30年 4 月20日開催）	1
2	教育委員会 5 月定例会（平成30年 5 月29日開催）	1
3	教育委員会 6 月定例会（平成30年 6 月26日開催）	2
4	教育委員会 7 月定例会（平成30年 7 月24日開催）	2
5	教育委員会 8 月定例会（平成30年 8 月21日開催）	3
6	教育委員会 9 月定例会（平成30年 9 月28日開催）	3
7	教育委員会10月定例会（平成30年10月29日開催）	4
8	教育委員会11月定例会（平成30年11月15日開催）	4
9	教育委員会12月定例会（平成30年12月 3 日開催）	4
10	教育委員会 1 月定例会（平成31年 1 月25日開催）	4
11	教育委員会 2 月定例会（平成31年 2 月15日開催）	5
12	教育委員会 2 月臨時会（平成31年 2 月27日開催）	6
13	教育委員会 3 月定例会（平成31年 3 月22日開催）	6
14	施設訪問	7
15	教育委員会協議会	7
○	教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等	8

II 教育委員会における事務の点検・評価について

1	郷土愛の醸成による人材の育成	9
1)	郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（学校教育課）	9
2)	米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出 （教育総務課・中央図書館）	9
3)	縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信（科学博物館）	10
4)	歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進（科学博物館）	10
5)	豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成 （科学博物館）	11
6)	歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館 （仮称）の整備（中央図書館）	12
7)	長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成 （学校教育課）	12
8)	子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進 （青少年育成課）	12
2	子ども・子育て支援の充実	13
1)	乳幼児や妊産婦への支援の充実（子ども家庭課）	13
2)	特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実 （学務課・学校教育課・子ども家庭課・保育課）	14

3)	子育て家庭への経済的支援の充実（学務課・子ども家庭課・保育課）	16
4)	多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり （子ども家庭課・保育課）	17
5)	保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保 （教育施設課・保育課）	18
6)	放課後の児童の預かりサービスの充実（青少年育成課）	19
7)	多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり（子ども家庭課）	19
8)	保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援 （子ども家庭課・青少年育成課）	20
9)	これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実（子ども家庭課）	21
3	質の高い教育の推進	22
1)	熱中！感動！夢づくり教育の推進（学校教育課）	22
2)	どの子にも分かる授業の実現（学務課・学校教育課）	22
3)	地域の力、市民の力を生かした教育の推進（学校教育課）	24
4)	「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実 （学校教育課）	25
5)	学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備 （教育施設課）	25
6)	通学路における児童・生徒の安全確保（学校教育課）	26
7)	食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進 （学務課）	26
8)	子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実 （学校教育課）	27
9)	特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システムの充実（学校教育課）	28
10)	私学の振興と家庭の教育費負担軽減（学務課）	29
11)	長岡市SNSセーフティープログラムに関する取組 （学校教育課・子ども家庭課・保育課・青少年育成課）	29
4	生涯にわたるまなびの場の充実	31
1)	市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備 （中央図書館・科学博物館）	31
2)	民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備（中央図書館）	32
3)	市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援（中央図書館）	32
●	教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について	33

I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について

平成30年度に教育委員会定例会を12回、臨時会を1回開催した。39件の議案を審議し、協議報告事項は64件であった。また、施設訪問を7回実施し、16か所で授業参観・職員懇談・給食試食及び施設内視察を行った。さらに、教育委員会協議会を2回開催した。

審議の結果は、以下のとおりである。

1 教育委員会4月定例会

- 日 時 平成30年4月20日（金曜日）
午後4時から午後4時30分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 1件

議案第25号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
--------	---------------	------

- 協議報告事項 4件
 - ・岡南小学校開校式について
 - ・長岡市有形文化財「菩薩形立像」の指定解除について
 - ・長岡版ネウボラの充実「ままりラ」「ままナビ」平成29年度実績報告について
 - ・平成30年度長岡市成人式について

2 教育委員会5月定例会

- 日 時 平成30年5月29日（火曜日）
午後3時から午後3時50分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 4件

議案第26号	条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）	原案決定
議案第27号	条例廃止の申出について（長岡市青少年育成センター条例の廃止）	原案決定
議案第28号	長岡市立中学校部活動指導員の任用等に関する要綱の制定について	原案決定
議案第29号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 3件
 - ・教育に関する事務の点検及び評価方法について
 - ・平成30年度全国学力・学習状況調査問題 長岡市教育委員会分析概要について

- ・平成30年度長岡市成人式について

3 教育委員会 6 月定例会

- 日 時 平成30年 6 月26日（火曜日）
午後 2 時30分から午後 3 時40分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 2 件

議案第30号	長岡市青少年育成センター条例施行規則の廃止について	原案決定
議案第31号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 7 件
 - ・ 6 月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・ 教育委員会関係工事等の入札状況について
 - ・ 平成30年度熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾 夢企画事業」について
 - ・ 平成30年度思春期向け次代の親育成事業の実施計画について
 - ・ 長岡市予防接種事故災害補償規程の一部改正について
 - ・ 長岡市私立認可保育所等未満児保育事業補助金交付要綱の一部改正について
 - ・ 子育て支援員研修について

4 教育委員会 7 月定例会

- 日 時 平成30年 7 月24日（火曜日）
午後 1 時20分から午後 2 時10分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0 人
- 議 事 2 件

議案第32号	長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について	原案決定
議案第33号	平成31年度使用教科用図書の採択について	原案決定

- 協議報告事項 4 件
 - ・ 平成29年度長岡市の児童生徒の問題行動等について
附属機関等会議報告について
 - ・ 第 1 回長岡市栃尾美術館協議会
 - ・ 第 1 回長岡市子ども・子育て会議
 - ・ 長岡市要保護児童対策地域協議会代表者・実務者会議

5 教育委員会 8月定例会

- 日 時 平成30年 8月21日（火曜日）
午後 3時10分から午後 4時03分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 4件

議案第34号	平成29年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について	原案決定
議案第35号	条例改正の申出について（長岡市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）	原案決定
議案第36号	補正予算の要求について	原案決定
議案第37号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

- 協議報告事項 3件
 - ・平成30年度全国学力・学習状況調査結果概況について
附属機関等会議報告について
 - ・第1回長岡市図書館協議会
 - ・第1回長岡市寺泊水族博物館協議会

6 教育委員会 9月定例会

- 日 時 平成30年 9月28日（金曜日）
午後 1時40分から午後 2時50分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 2件

議案第38号	専決処理について（校長の人事異動の内申について）	原案承認
議案第39号	専決処理について（長岡市保育園条例施行規則の一部改正について）	原案承認

- 協議報告事項 6件
 - ・9月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・教育委員会関係工事等の契約変更について
 - ・平成30年度全国学力・学習状況調査結果分析と長岡市教育委員会としての取組について
 - ・宮内保育園・黒条保育園の移管先法人の決定について
附属機関等会議報告について
 - ・第1回熱中！感動！夢づくり教育推進会議
 - ・第1回長岡市文化財保護審議会

7 教育委員会10月定例会

- 日 時 平成30年10月29日（月曜日）
午後 2 時30分から午後 3 時25分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 0件
- 協議報告事項 2件
 - ・「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」審査会結果
附属機関等会議報告について
 - ・第2回長岡市子ども・子育て会議

8 教育委員会11月定例会

- 日 時 平成30年11月15日（木曜日）
午後 1 時00分から午後 1 時50分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 3件

議案第40号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第41号	補正予算の要求について	原案決定
議案第42号	指定管理者指定の申出について（長岡市法末自然の家）	原案決定

- 協議報告事項 1件
 - ・平成31年度新規事業等について

9 教育委員会12月定例会

- 日 時 平成30年12月 3 日（月曜日）
午前 9 時から午前11時00分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

議案第43号	平成31年度当初予算の要求について	原案決定
--------	-------------------	------

- 協議報告事項 2件
 - 附属機関等会議報告について
 - ・第2回長岡市寺泊水族博物館協議会
 - ・第1回長岡市スポーツ推進審議会

10 教育委員会 1 月定例会

- 日 時 平成31年 1 月25日（金曜日）
午後 3 時30分から午後 4 時55分まで

- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 1人
- 議 事 3件

議案第1号	長岡市柿が丘学園指定障害児相談支援事業及び指定特定相談支援事業運営規程の一部改正について	原案決定
議案第2号	附属機関委員の委嘱について	原案決定
議案第3号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について	被表彰候補者全員適と決定

- 協議報告事項 13件
 - ・12月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・教育委員会関係工事等の契約変更について
 - ・長岡市児童生徒数の状況について
 - ・平成30年度長岡市の子どもたちの体力について
 - ・平成31年度全国学力・学習状況調査の参加について
 - ・平成29年度児童生徒の問題行動等の現状について（県・全国との比較）
 - ・平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰について
 - ・悠久山小動物園の動物舎の損壊について
 - ・長岡市児童福祉法における基準該当通所支援事業者の登録等に関する規則の制定について
 - ・長岡市私立保育・教育施設運営費補助金交付要綱の一部改正について
 - ・豊田地区の保育需要増加への対応策に係る公募について
 - 附属機関等会議報告について
 - ・第2回長岡市栃尾美術館協議会
 - ・長岡市馬高・三十稲場遺跡整備活用委員会

11 教育委員会2月定例会

- 日 時 平成31年2月15日（金曜日）
午前10時50分から午前11時30分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 5件

議案第4号	長岡市立学校通学区域規則の一部改正について	原案決定
議案第5号	条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第6号	条例改正の申出について（長岡市立へき地保育園条例の一部改正）	原案決定
議案第7号	条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）	原案決定

議案第8号	補正予算の要求について	原案決定
-------	-------------	------

- 協議報告事項 2件
 - ・平成31年度長岡市教育委員会当初予算の概要について
 - ・豊田地区の保育需要増加への対応策実施法人の決定について

12 教育委員会 2月臨時会

- 日 時 平成31年2月27日（水曜日）
午後3時45分から午後4時45まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 1件

議案第9号	校長、教頭の人事異動の内申について	原案決定
-------	-------------------	------

- 協議報告事項 2件
 - ・平成30年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について
 - ・児童虐待の状況について

13 教育委員会 3月定例会

- 日 時 平成31年3月22日（金曜日）
午後1時10分から午後3時15分まで
- 場 所 教育委員会会議室
- 傍聴人 0人
- 議 事 11件

議案第10号	専決処理について（校長の人事異動の内申について）	原案承認
議案第11号	専決処理について（職員人事について）	原案承認
議案第12号	長岡市教育委員会組織規則の一部改正について	原案決定
議案第13号	長岡市教育委員会公印規則の一部改正について	原案決定
議案第14号	長岡市教育委員会当直勤務規程の一部改正について	原案決定
議案第15号	長岡市地域資料館条例施行規則の一部改正について	原案決定
議案第16号	長岡市教育委員会非常勤嘱託員の任用等に関する要綱の一部改正について	原案決定
議案第17号	長岡市私立認可保育所休日保育事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第18号	長岡市放課後児童健全育成事業実施要綱の一部改正について	原案決定
議案第19号	補正予算の要求について	原案決定
議案第20号	附属機関委員の委嘱について	原案決定

- 協議報告事項 15件
 - ・3月議会における教育委員会関係の質問事項について
 - ・平成31年度長岡市学校教育の共通実践事項について
 - ・第2回熱中！感動！夢づくり教育推進会議報告について

- ・平成31年度米百俵のまち長岡「熱中！感動！夢づくり教育」の概要について
- ・熱中！感動！夢づくり教育推進協議会設置要領の廃止について
長岡市が制定する要綱の制定及び廃止について
 - 【制定】
 - ・長岡市子ども食堂運営費補助金交付要綱
 - 【廃止】
 - ・長岡市オープンスクール通学費支援補助金交付要綱
 - ・長岡市保育園集団通園事業補助金交付要綱
 - ・長岡市和島地域青年による地域活性化事業補助金交付要綱
- ・埋蔵文化財収蔵センター供用開始について
- ・第2回広めよう！市P連ルール啓発標語コンテスト審査結果について
附属機関等会議報告について
 - ・長岡市公立学校通学区域審議会
 - ・第2回長岡市図書館協議会
 - ・第2回長岡市文化財保護審議会
 - ・第3回長岡市子ども・子育て会議

14 施設訪問

- 16か所を訪問

【内訳】 保育園4、小学校4、中学校4、特別支援学校1、その他施設3

- (1) 平成30年5月29日（火曜日）
寺泊中学校、秋葉中学校
- (2) 平成30年6月26日（火曜日）
富曾亀小学校、石坂小学校
- (3) 平成30年7月24日（火曜日）
東部川崎保育園、日越保育園
- (4) 平成30年9月28日（金曜日）
栃尾美術館、子育ての駅栃尾すくすく
- (5) 平成30年10月30日（火曜日）
上通小学校、堤岡中学校、高等総合支援学校、寺泊民俗資料館
- (6) 平成30年11月15日（木曜日）
上除保育園、黒条保育園
- (7) 平成31年1月25日（金曜日）
下川西小学校、東北中学校

15 教育委員会協議会

- 2回開催

- (1) 平成30年6月13日（水曜日）教育委員会会議室
 - ・平成29年度教育に関する事務の管理、執行の点検及び評価について
- (2) 平成30年10月29日（月曜日）教育委員会会議室
 - ・長岡市中学校部活動基本方針（案）について

＜教育委員会会議等に関する点検・評価及び今後の取組等＞

- 会議において、教育や子育て支援に関する新制度の概要や児童生徒の現況を速やかに報告するなど、教育委員と教育委員会事務局の情報共有を進め、審議の活性化に努めた。会議では、議案及び協議報告事項に対し、各委員から積極的な発言があり、十分な審議がなされた。
- 会議録はホームページで公開しており、協議報告事項なども詳しく掲載し、審議の透明性を高めている。
- あらかじめ年間計画を立て定例会と施設訪問を開催することにより、教育委員全員が参加することができた。
- 学校訪問では、生徒指導や学力など学校運営上の課題を詳細に聞き取り、現場の状況を把握することに努めた。また、学校との意見交換では、より良い学校づくりに向け、訪問校ごとに教育活動の目標や課題をテーマとして設定し、より深い議論ができた。
- 民営化前後の保育園や、子育ての駅を訪問し、園児の活動の様子を見学したり、園長等と懇談したりすることによって、民営化後の保育園においても保育の質が維持されていることや子育ての駅の運営状況を確認することができた。
- 新たに「施設訪問の日」として、プログラミング教育の出前授業や大規模改造工事が完了した校舎、リニューアルした施設など教育委員会のタイムリーな事業の視察を行い、教育委員がより教育現場の現状を把握することができた。
- 各委員は成人式や表彰式などの教育委員会行事、各課の実施事業、学校の周年行事に積極的に出席した。また、文部科学省などが開催する研修会にも積極的に参加し、国の動向や他自治体の取組などについての理解を深めた。
- 教育委員の意見を教育行政により反映させるため、教育委員会協議会を開催した。協議会で出た意見は各課の施策等に反映した。
- 平成27年度に策定した教育大綱の基本理念・基本方針を踏まえて策定した長岡市教育振興基本計画を具体的な施策の指針とし、長岡の未来を担う子どもたちのために教育と子育て支援の一貫した施策を更に推進していく。

Ⅱ 教育委員会における事務の点検・評価について

平成28年4月に策定した「長岡市教育振興基本計画」に定めた施策を中心に点検・評価を行った。

具体的には、各章ごとの「施策の内容」について、平成30年度における取組内容等を点検・評価したものである。

点検・評価の結果は、以下のとおりである。

1 郷土愛の醸成による人材の育成

1) 郷土長岡を学ぶ教育活動の推進（担当：学校教育課）

<平成30年度取組>

○調べる！出かける！学ぶ！「ながおか学」の冊子を小学校5年生全員に配付するとともに、各校が実践している活用方法を紹介する取組を行い、地域性や学校の独自性を生かした活用の充実を図った。平成30年度は、八幡林遺跡の紹介を加えるなど、若干の修正を行った。また、冊子の購入や公共施設への配置についての要望を受けて、書店にて160冊の販売も行った。

○学校・子どもかがやき塾夢企画事業等を活用し、学校、家庭、地域、NPO等が連携し、子どもの継続的な体験活動の場の充実に努め、ふるさとへの愛着と誇りを育む教育活動に全校が取り組んだ。

<成果及び今後の取組等>

○調べる！出かける！学ぶ！「ながおか学」の冊子は、全市立学校で、主に社会科や総合的な学習の時間に、地域での調べ学習や施設見学等のガイドブックとするなど、幅広い用途での活用につながった。今後も児童生徒及び教職員はもとより、広く市民に活用していただけるよう内容の充実を図る。

○各学校が創意・工夫を凝らして地域の特色や伝統文化等について学ぶ機会を設定したり、保護者や地域、NPO等と連携したりすることで、体験活動や学習活動の充実を図り、やる気や学ぶ意欲を引き出すことにつながった。

○保護者や地域の方を招いた発表会や市内外への発信活動を通して表現力や自信を高めるとともに、ふるさとのよさや魅力を再発見しながら愛着や誇りを育んだ。

2) 米百俵の精神の普及・伝承による人材の育成と発信の場の創出

（担当：教育総務課・中央図書館）

<平成30年度取組>

○次世代に米百俵の精神を伝承するため、(公財)長岡市米百俵財団との連携により、市内小学校を対象に米百俵読本やDVDアニメなどを活用した普及・啓発活動を行った。(教育総務課)

○米百俵の精神を全国に発信する拠点の整備に向け、中心市街地整備室と連携して、「米百俵プレイス(仮称)」の基本計画・基本設計について検討を行っ

た。(中央図書館)

＜成果及び今後の取組等＞

○読本やDVDは、ほぼすべての学校が総合的な学習の時間や社会等の授業で活用し、「子どもたちにとってわかりやすい内容だった。」「学習資料として有効に活用できた。」「長岡市民として知っておくべきことがわかりやすくまとめられている。」等の評価を受けた。今後も継続的に授業等での活用を呼びかけていく。(教育総務課)

○米百俵の精神の伝承・発信の方策について、複合施設の導入機能としての図書館の在り方を考える中で、今後検討していく。(中央図書館)

3) 縄文文化・火焰土器関連遺産の活用及び発信 (担当：科学博物館)

＜平成30年度の取組＞

○大英博物館に貸出中の、市内の遺跡から出土した火焰型土器等のコンディションを確認するとともに、展示改修や貸出期間延長等についての協議を進めた。また、馬高縄文館で縄文文化に関する特別展や講演会を開催したほか、地域住民が中心となって開催している「縄文の丘マラソン」や「関原楽市縄文まつり」とも連携し、市内外への情報発信に努めた。また、外部アドバイザーを活用する取組として、開館当初より馬高縄文館の名誉館長に小林達雄氏(國學院大學名誉教授)から継続して就任いただいております、平成30年度も数々の助言とともに各媒体における情報発信に尽力してもらった。

○寄贈を受けた縄文関連図書の選別や目録作成などを行い、活用に向けた準備を進めた。

＜成果及び今後の取組等＞

○世界中から年間600万人が訪れる大英博物館との展示を通じた交流により、長岡の火焰型土器や縄文遺跡を世界に向けて発信することができた。今後も、長岡の歴史的遺産である火焰土器や縄文遺跡をシティプロモーションのツールと位置づけ、国内外に向けた発信を強化していく。また、信濃川火焰街道連携協議会と連携して東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全国に火焰土器を含む日本遺産をPRしていく。

○縄文関係図書については、本年度の作業で総量の約24%にあたる12,000冊分の目録化を達成した。今後も引き続き作業を継続し、早期の活用を目指す。

4) 歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用促進 (担当：科学博物館)

＜平成30年度の取組＞

○歴史的建造物を紹介する冊子の配布やホームページでの公開を通して、継続して情報を発信した。

○国重要文化財「旧長谷川家住宅」において、「髪結@長谷川邸」の企画や長岡市指定文化財「蚊帳」、小国和紙作品のインスタレーションなどの関連展示などを行い、100人の来場者があった。

○10月28日に飯塚郷土民俗芸能保存会ほか8団体による郷土民俗芸能公演会をアオーレ長岡で開催し、110人の来場者があった。また、インターネット上に市内民俗芸能の動画の配信や、各地域での公演日時などを載せるなど、市内外に対しての情報発信を行った。

＜成果及び今後の取組等＞

- 歴史的建造物についての情報発信を行うことができた。今後も、情報発信を継続し、その価値・魅力について伝えていく。
- 文化財を活用した普及活動等を推進することができた。今後も、その取組を継続し、歴史的・文化的遺産の継承及び保全・活用の促進に努める。
- WEB上での情報発信や公演会の開催などを通じて、今後も、多くの市民に民俗芸能の魅力や継承・保存の大切さを伝えていく。

5) 豊かな自然・歴史・文化に触れる機会の提供と個性輝く子どもたちの育成（担当：科学博物館）

＜平成30年度の取組＞

- 科学博物館において、企画展「悠久山ー<御山>の自然の変化をたどるー」、「生物・岩石標本展示会・自然科学写真展示会」、長岡開府400年記念「長岡城跡出土品展」、「雪之図ー描かれた雪中風俗をひもとくー」等様々な分野の特別展や講演会を開催し、市民が博物館等に足を運ぶ機会を提供した。（入館者延べ29,415人）
- 年間を通じて、科学博物館や馬高縄文館・寺泊水族博物館等で、市民を対象とした普及活動を行ったほか、小・中学校等に学芸員を派遣する事業を企画し、多くの学校から活用された。また、「バスで行く科博見学・体験学習」を継続実施し、小・中学生の学習機会を増やすことに努めた。（普及活動等参加者延べ9,132人）

＜成果及び今後の取組等＞

- 科学博物館では、平成30年度に入館者、資料照会、普及活動等を合わせて38,547人の利用者があった。入館者数は昨年度に比べてわずかに減少したものの、長岡開府400年記念の機運が高まり、資料所有者から特別の協力を得られたことなどにより、普段は見られない貴重な資料を公開する機会となり好評を得た。今後も人気の高い体験学習会の機会を増やし、時宜に応じた特別展や講演会の開催を継続する。また、周知活動を充実させ、市民が博物館を利用する機会を増やす。
- 科学博物館等が企画した講演会や企画展・特別展や各種普及活動により、多くの市民に対し長岡の自然・歴史・文化に触れる機会を提供することができた。今後は、科学博物館のHPやフェイスブックなどを活用して、学校や子ども会などに体験学習等の事業とその魅力について情報発信に努めることで、更なる博物館利用の促進につなげる。

6) 歴史資料の適切な保存・管理と資料の収蔵及び公開のできる文書館 (仮称)の整備(担当:中央図書館)

<平成30年度の取組>

- 『長岡市史双書No.58』を刊行するとともに、郷土長岡に関する歴史資料を活用して、「古文書のいろは」、「古文書に見る長岡のすがた」、「長岡市史双書を読む会」などの歴史講座を9回開催した。
- 長岡市災害復興文庫の運営・充実に向け、国立国会図書館のデータベース(東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」)に中越大震災の写真資料を約60点掲載した。また、市民協働で歴史資料の保存に取り組んできた長岡市資料整理ボランティアと十日町市のボランティアとの12回目の交流会を長岡市で実施したほか、災害復興文庫の資料を紹介する図録『現代災害史研究と史料保存ー長岡市災害復興文庫・写真帳『災害記録 長岡市』を中心にー』を新潟大学と連携して編集した。

<成果及び今後の取組等>

- 年間を通じて歴史資料の整理・保存・公開の取組を進め、目録作成が終了した歴史資料約4,700点を新たに公開した。
- 歴史資料整理等に延べ247人の長岡市資料整理ボランティアが参加し、市民協働の取組がより一層図られた。
- 災害復興文庫について、引き続き全国の関係機関・団体と連携して、資料の充実・情報の発信に努めていく。また、文書館(仮称)の整備に向けて検討を進めていく。

7) 長岡空襲の歴史の継承と平和学習の推進などによる平和意識の醸成 (担当:学校教育課)

<平成30年度の取組>

- 冊子「ながおか学」配付時に、平和学習での活用例を全小学校に紹介した。教職員向けの研修に平和教育を位置付け、長岡空襲についての理解を深めたり、戦災資料館の活用を呼びかけたりした。

<成果及び今後の取組等>

- 戦災資料館の見学や平和劇の発表など、学校ごとに工夫した取組が行われた。教育センター研修講座「長岡の平和教育～未来に伝える長岡空襲～」の工夫を図るなど、今後も、児童生徒及び教職員への周知を継続する。

8) 子ども会や地域活動のリーダー育成など、青少年の健全育成活動の推進 (担当:青少年育成課)

<平成30年度の取組>

- 小学生リーダー養成事業として、寺泊地域でのサマーキャンプに53人の小学生が参加するとともに、スタッフとして中高生リーダーが13人参加した。また、青少年の健全育成を目的に組織されている4団体に補助金を支給した。

さらに、市内19地域の青少年育成団体の各活動に対し活動報奨金を支給した。
 ○長岡地域では、アオーレ長岡で様々な遊びを体験できる「子どもフェスティバル」を開催し、464人が参加した。支所地域では、小・中学生とその保護者を対象にした24の様々な体験講座を開催し、延べ2,286人が参加した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 地域間・世代間交流を通じて、小・中・高校生など各世代のリーダーを養成した。また、団体への補助金や活動報奨金の支給により、市全域及び各地域における青少年育成活動の更なる発展に寄与した。今後も、地域人材や地域資源を活用した事業の支援を行う。
- 集団活動や体験活動を通して、子ども達に自律性と社会性を学ぶ機会を提供することができた。今後も、より多くの子ども達が様々な体験に参加できるように継続して事業を行う。

2 子ども・子育て支援の充実

1) 乳幼児や妊産婦への支援の充実（担当：子ども家庭課）

＜平成30年度の取組＞

○産後ケアコーディネーターを2人配置し、産前産後のサポートをきめ細かく実施した。

- ・産後デイケア一む「ままりラ」※ 311回実施 延べ944人利用
- ・産後デイケア一む「ままりラ西」※190回実施 延べ681人利用
- ・産後デイケア一む「ままナビ」※ 163回実施 延べ562人利用
- ・子育て支援センター「ままナビ」（6か所）※
28回実施 延べ276人利用
- ・「ままのまカフェ」※ 204回実施 延べ1,956人利用
- ・産後ケア訪問 実人員2人 10回
- ・産前産後寄り添い支援訪問 実人員5人 73回

※産後デイケア一む「ままりラ」・「ままナビ」、 「ままのまカフェ」

妊娠から出産・育児まで切れ目ない支援を行う長岡版ネウボラの産後の主要な事業。ままりラは、産後ケアコーディネーターが保健師や助産師などと一緒に、産前及び産後の母親の心身のサポートを行う場。ままナビは、保育士から具体的な育児の仕方や保育園での過ごし方等について学ぶ場。ままのまカフェは、母子保健推進員が子どもを預かり見守る中で、保護者同士が情報交換等ゆったりとした時間を過ごしてもらおう場。

- 健康の保持増進のため、妊婦健康診査、4・10か月健診、1歳6か月児健診、3歳児健診、子どもの定期予防接種を行った。
- 身近な地域において、母子保健推進員が妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を実施した。

- ・妊婦、赤ちゃん訪問活動 3,452件
 - ・子育て支援活動 219回 親子1,983組 妊婦2人 その他164人
- 育児の情報提供や、妊婦疑似体験、沐浴体験を行い、夫婦と一緒に育児について学ぶ「パパママサークル」を開催した。
- ・15回実施 参加者 妊婦282人 パートナー280人 祖母6人

＜成果及び今後の取組等＞

- 妊娠中や出産後早期から必要な支援を提供することで、母体の健康面の不安や育児・発育に関する悩みや不安が軽減された。平成30年度は「ままりラ西」と子育て支援センターで「ママナビ」を開設し、より多くの母子をサポートすることができた。令和元年度はさらに、子育て支援センターでの「ママナビ」を4か所増設し、市内全域で子育てについて学び、相談ができる体制を整えていく。
- ほとんどの妊婦が妊婦健診を受診し、安心・安全な出産につながった。
- 母子保健推進員が意欲的に子育て支援に取り組んでおり、地域全体で子育てを応援しようという意識が広がっている。
- 「パパママサークル」では、夫婦でお互いへの配慮をしようという意識や父親としての自覚の醸成につながった。
- 夫や家族も含めた支援が重要であることから、今後も家族ぐるみの子育てを支援していく。

2) 特別な支援が必要な子どもや家庭への施策の充実

(担当：学務課・学校教育課・子ども家庭課・保育課)

＜平成30年度の取組＞

- 柿が丘学園において、通所による児童発達支援事業、保育所等訪問支援事業及び障害児相談支援事業等を行った。(子ども家庭課)
 - ・児童発達支援事業：契約児童数 62人 利用延数 4,302人
 - ・保育所等訪問支援：契約児童数 20人 訪問延数 92件
 - ・障害児相談支援：相談契約数 68人 計画作成 91件
モニタリング 174件
- 特別な支援が必要な乳幼児の発達に関する不安や悩みごとに応じるため、「子ども発達相談室」を運営し、保育士や言語聴覚士等が対応した。(子ども家庭課)
 - ・電話・来室相談 実件数 554件
- 家庭児童相談員等が、乳幼児健診や子育ての駅等に出向いて相談を受けたり、子育てに不安を抱える母親同士のグループ支援活動を行ったりするなど、相談しやすい環境づくりに努めた。また、長岡市要保護児童対策地域協議会の関係機関が連携して、支援が必要な子どもや保護者に対し、適切な対応を行った。(子ども家庭課)
 - ・相談対応 新規 実件数 396件 (うち児童虐待126件)
継続 実件数 110件 (うち児童虐待36件)

○保育園・幼稚園・認定こども園等に在籍している特別な支援が必要な子どもに対する訪問支援「こどもすこやか応援事業」を実施し、在籍園とその保護者に対する支援を行った。(子ども家庭課)

支援児童数 175人 支援施設数 59園 支援延数 388件

○就学前から就学後まで継続した児童支援のための「すこやかファイル」作成や小学校へのファイルの引継ぎを支援した。(子ども家庭課)

新規作成児童数(全年齢) 111人 就学期引継児童数 108人

○発達障害に関する理解と支援のために、保育士・幼稚園教諭・保育教諭・保健師・関係職員のほか、在園児の保護者(児の障害の有無に関わらず)にも対象を拡大した研修会を実施した。(子ども家庭課)

・7月14日(土) 参加者(支援者・保護者) 265人

・11月21日(水) 参加者(支援者) 106人

○特別支援学級への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。(学務課)

・支給総額 19,762,000円

○配慮を要する児童を含む集団保育をより安全で良質なものにするため、配慮を要する児童の見守り等を行う保育補助職員を配置した施設に対し、人件費の一部を補助する保育体制強化事業を実施した。(保育課)

事業実施園 14園 補助金総額 8,889,000円

○本市の特別支援教育の現状や就学手続等の理解を深めるため、「特別支援教育ガイダンス」を就学前園児の保護者を対象に3日間実施した。また、特別な支援が必要な子どもの保護者、在籍園、就学先の専門相談員等と相談を重ね、適正な就学について支援した。(学校教育課)

<成果及び今後の取組等>

○「こども発達相談室」での相談内容が多様化・複雑化する中で、関係機関と連携しながら対応することができた。今後も連携を強化しながら、保護者に寄り添った支援の充実を図る。(子ども家庭課)

○家庭児童相談室の運営においては、子育ての駅や産後デイケアルーム・ままりらと連携しながら、相談しやすい環境づくりを進めることができた。また、長岡市要保護児童対策地域協議会では、家庭の抱える様々な問題の多様化・複雑化に適切に対応していくため、地域の関係機関との連携によるネットワークづくりを推進していく。(子ども家庭課)

○「こどもすこやか応援チーム」による訪問支援を実施し、園や保護者に対して、子どもの特性や困り感についての理解促進と具体的な対応について相談したことで、よりよい成長を促すことができた。(子ども家庭課)

○「すこやかファイル」の主旨や有用性が保護者・小学校に浸透したことで、ファイルの作成者が増加した。小学校への引継ぎもスムーズになり、子どもと保護者の学校生活への不安が軽減された。今後も「すこやかファイル」の

活用を関係機関と進めていく。(子ども家庭課)

- 支援者と保護者が対象の研修会は、保護者の参加が増加した。当事者の保護者だけでなく、その他の保護者にも参加を促すよう広報し、「心のバリアフリー」を促進していく。(子ども家庭課)
- 特別支援学級への就学において、今後も、保護者の経済的負担軽減のための支援を継続して行う。(学務課)
- 保育体制強化事業を実施することで、安全・安心な保育を実施することができた。今後も、安全・安心な保育を進めるため、配慮を要する児童の受け入れ支援として配慮を要する児童の見守りを行う保育補助職員の配置等、保育体制を強化するための事業を行っていく。(保育課)
- 「特別支援教育ガイダンス」には123人の参加者があり、希望される方に対し個別相談を行った。また、小学校就学に関して、年長児・年中児合わせて184人の相談に対応し、適切な就学につなげた。今後も、これらの取組を引き続き実施し、保護者に寄り添った支援を継続して行う。(学校教育課)

3) 子育て家庭への経済的支援の充実(担当:学務課・子ども家庭課・保育課)

<平成30年度の取組>

- 小・中学校への就学に際し、保護者の経済的負担を軽減するため、就学援助費を支給し、所得状況に応じて学用品費等の支援を行った。(学務課)
 - ・支給総額 281,527,000円
- 認定を受けた児童の保育料等の減額を維持し、国が示す保育料基準額に対し約35%軽減して保護者の経済的負担軽減を図った。(保育課)
 - ・国が示す保育料 約29億9,600万円
 - ・市の保育料 約19億3,300万円
 - ・保育料軽減額 約10億6,300万円(軽減率 約35%)
- 新制度に移行していない私立幼稚園に在園する園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、各世帯の所得状況に応じて授業料及び入園料の一部を国と市で補助した。また、市単独で上乗せして私立幼稚園就園費助成金を支給した。(保育課)
 - ①私立幼稚園就園奨励費補助金(入園児に対する支給割合91%)
 - 支給対象者 40人 補助金総額 5,724,000円
 - ②私立幼稚園就園費助成金(市単独助成分)
 - 支給対象者 36人 補助金総額 799,000円
- 経済的理由などから課題を抱える子どもの情報を収集し、可能な支援を検討するとともに必要な支援につなぐ「子どもナビゲーター」を1名配置した。(子ども家庭課)

<成果及び今後の取組等>

- 小・中学校就学における保護者の経済的負担軽減のための支援について、今

後も継続して行っていく。(学務課)

- 保育料を減額することで、保護者の経済的な負担をより軽減することができた。今後も国が示す保育料基準額に対し軽減を行い、保護者の経済的負担の軽減を図っていく。(保育課)
- 幼稚園授業料及び入園料の一部を国と市が補助することで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。今後も、保護者の経済的支援を行っていく。(保育課)
- 学校訪問によって課題を抱える子どもの実態を把握し、支援の必要な子どもについて関係支援機関につないだ。令和元年度は、子どもナビゲーターを1増員し、支援の拡充を図っていく。(子ども家庭課)

4) 多様な働き方の実現及び働きながら子育てできる環境づくり

(担当：子ども家庭課・保育課)

<平成30年度の取組>

- 仕事と育児の両立を支援するため、ファミリー・サポート・センターを運営した。また、ファミリー・サポート・センター事業を広く周知するため、交流会や講演会を実施した。(子ども家庭課)
 - ・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 2,643件
- 「ままナビ」で、保護者が保育園の生活や復職後の生活をイメージできるように支援した。(子ども家庭課)
 - 191回実施 延べ838人利用
- 新たな保育の担い手確保と保育補助者の資質向上のため、子育て支援員を認定する研修会を、7月及び11月の年2回開催した。(保育課)
 - ・「地域保育コース」 142人
 - ・「地域子育て支援コース」 7人
 - ・「フォローアップ研修」 28人
 - ・「現任研修」 32人

<成果及び今後の取組等>

- ファミリー・サポート・センターでは、今後も、登録会員の拡大や事業の充実を図るため、交流会の実施や制度のPRを行っていく。(子ども家庭課)
- 「ままナビ」で、保育園入園に対する不安が軽減されたり、復職に向けての準備を整えたりすることができ、スムーズに復職することにつながった。(子ども家庭課)
- 総受講者149人のうち、144人が新たに子育て支援員として認定された。保育所等に183人(平成31年3月1日時点)の子育て支援員を配置することができ、児童の受け皿確保につながった。今後も継続して子育て支援員を増やしていくことにより、増加する保育需要への対応と保育の質の確保に努めていく。また、保育の担い手を新規に掘り起こすため、子育て支援員研修の周知に努め、子育て支援員認定者に対して保育所等での就労を促していく。(保育課)

5) 保育サービスの充実、保育環境の整備及び保育士の確保

(担当：教育施設課・保育課)

<平成30年度の取組>

- 安全・安心な保育環境を整えるため、北部保育園及び岩塚保育園のトイレ改修工事を行った。(教育施設課)
- 快適な保育環境の整備を推進するため、南部・北部・宮内・中沢・桂・昭和・上除・宮本・黒条・十日町・新組・石坂・おおこうづの各保育園及び和島幼稚園の3歳以上児保育室に冷房設備を整備した。(教育施設課)
- 認定こども園への移行のための施設整備に対して財政的支援を行った。(保育課)
 - ・ひごし中央保育園の増改築(※)
 - ・蔵王保育園の増改築(※)
 - ・希望が丘幼稚園の増改築
 - ・栃尾天使幼稚園の大規模修繕
- ※ 鉄骨資材の不足により令和元年度に一部を繰り越す。
- 子育て支援センター等の整備に対して財政的支援を行った。(保育課)
 - ・岡南保育園の増築及び大規模修繕
- 保護者の子育てと就労との両立を支援するために各種特別保育を実施した。(保育課)
 - ・病児・病後児保育 7か所 1,476人
 - ・休日保育 4か所 746人
 - ・一時保育 31か所 5,690人
 - ・障害児保育 19か所 44人
- 子育て中の保護者に保育園を開放し、育児相談や子育てに関する情報提供等を行う子育て支援センター事業を継続して実施した。(保育課)
 - ・子育て支援センター開設園 24か所 延べ利用者数 61,666人
- 保育士確保のために、雇用する保育士の宿舍を法人等が借り上げた費用の一部を補助する保育士宿舍借り上げ支援事業や、保育士の負担軽減のために配置する無資格の補助職員の雇用に必要な経費を補助する保育補助者雇上強化事業を実施した。(保育課)
 - ・宿舍借上げ 7園 補助金総額 2,773,000円
 - ・補助者雇上 5園 補助金総額 6,130,000円

<成果及び今後の取組等>

- 認定こども園への移行に伴う整備や老朽施設等を整備することで、安全・安心で快適な保育環境を整えることができたほか、保育園定員も135人(※)増加した。今後も適切な整備を行い、保育環境の整備を推進していく。(教育施設課・保育課)
 - ※ 令和元年度に事業を繰り越した分(40人)を含む。
- 各種特別保育事業を実施することで、仕事との両立を支援し、安心して子育て

てができる環境を整備することができた。(保育課)

- 保育人材の確保に継続して努めるため、今後も、事業効果を検討しながら保育士確保に関する各種事業を実施する。(保育課)

6) 放課後の児童の預かりサービスの充実 (担当：青少年育成課)

＜平成30年度の取組＞

- 保護者の就労などで、留守家庭の小学生を対象に、保護者が迎えに来るまでの間、預かり見守る児童クラブを50クラブ開設し、登録児童3,054人(平成29年度は3,052人)、延べ398,592人(平成29年度は387,720人)が利用した。

学年別登録人数(全児童数に対する登録率)

- ・1～3年生：2,844人(43%)
- ・4～6年生：210人(3%)

また、放課後発達支援コーディネーターを配置し、配慮を要する児童への対応について、児童厚生員へ助言・指導を行った。

- 保護者の勤務実態、通勤事情等のやむを得ない事情がある場合には、開設時間の延長を有料で実施し、延べ51,321人(平成29年度は48,823人)が利用した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 児童クラブを開設することで、児童が安心して過ごせる遊び場や生活の場を提供するとともに、子ども同士の交流や活動を通して健全育成を図ることができた。今後も、児童クラブの運営の充実に努める。

7) 多世代の交流、市民協働、企業との連携による地域全体で子育てを支援する体制づくり (担当：子ども家庭課)

＜平成30年度の取組＞

- 子育て支援の輪が広がっていくように、市内13か所の子育ての駅において、おじいちゃん、おばあちゃんとのふれあい遊びや、市内の学生によるお楽しみ会など多世代が交流する事業を実施した。

- 子育て中の保護者10名で構成する「子育ての駅運営委員会」を年6回開催し、子育ての駅の運営について改善点を検討したほか、市民が子育ての駅を気軽に利用できるように、運営委員が主体となり、ママ目線による子育ての駅の利用の仕方についてまとめたポスターを作成した。

- ファミリー・サポート・センターを運営し、地域全体で子育てを支え合う体制の充実を図った。

・ファミリー・サポート・センターのサポート活動件数 2,643件

- 企業から、オレンジリボンキャンペーンの協力もらった。

＜成果及び今後の取組等＞

- 13か所の子育ての駅全体で平成30年度の来場者数は、286,815人となった(平成29年度は278,819人)。今後も、子育てしやすい環境づくりとして、多世代

が交流する場を提供するとともに、利用しやすい施設の運営を行っていく。

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ①ちびっこ広場（長岡地域） 42,678人 | ⑧たんぼぼ（小国地域） 2,230人 |
| ②てくてく（長岡地域） 136,813人 | ⑨わくわく（和島地域） 4,694人 |
| ③ぐんぐん（長岡地域） 62,312人 | ⑩にこにこ（寺泊地域） 3,375人 |
| ④なかのんひろば（中之島地域） 2,714人 | ⑪すくすく（栃尾地域） 7,589人 |
| ⑤のびのび（越路地域） 4,431人 | ⑫にじの子広場（与板地域） 5,807人 |
| ⑥もりもり（三島地域） 6,713人 | ⑬すこやか（川口地域） 6,423人 |
| ⑦やまっこ（山古志地域） 1,036人 | |

○子育ての駅の運営にあたっては、「子育ての駅運営委員会」を設置するとともに、様々な年代の市民から「子育ての駅サポーター」として協力を得るなど、市民参加型の施設運営が実現できた。今後も、子育て支援団体や市民と協働・連携した子育ての駅の運営の充実に努める。

○会員の養成講習会を実施し、ファミリー・サポート・センター事業の充実に努めた。今後も、事業を充実し支援体制の強化を図るとともに、登録会員の増加と利用の促進を図る。

○今後も、関係部署と連携し、企業も含めて子育てしやすい環境づくりを推進していく。

8) 保護者対象の講座の実施など家庭教育への支援

（担当：子ども家庭課・青少年育成課）

＜平成30年度の取組＞

○小学校就学前の子どもを持つすべての保護者に、家庭教育等に関する基本的な事項を伝えるため、就学時健康診断などの保護者が集まる機会を活用し、指導主事等による「就学時家庭教育講座」を市内55校全てで実施した。（青少年育成課）

○「家庭で子どもに手伝いをさせよう運動」を推進するため、「お手伝い通信」を年4回発行し、すべての小学校、中学校、保育園、幼稚園の児童・生徒の保護者に配布した。また、小・中学生を対象に、「家庭でワクワクお手伝いポスターコンクール」を実施し、185点の応募があった。運動の推進週間には、審査会で選考した23点をさいわいプラザやアオーレ長岡で展示した。（青少年育成課）

○幼児、小・中学生の子を持つ親が、様々な子育ての課題にどう対応するかを学ぶ「親も育つ子育てセミナー」を2コース16講座と講演会を開催し、延べ423人が受講した。（青少年育成課）

○参加者同士の話し合いと交流の中で自分にあった子育て方法を見つけていく「NPプログラム講座」*を実施した（母親向け及び父親向けをそれぞれ開催）。その他に、子育ての具体的なスキルを学ぶ「子どもとの上手なコミュニケーション講座」や、「思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座」などを実施した。（子ども家庭課）

子育て講座参加者 延人数 329人

- ・母親向けNPプログラム講座 72人（平日・午前／保育付き）
- ・父親向けNPプログラム講座 56人（日曜・午前／保育付き）
- ・子どもとの上手なコミュニケーション講座 72人（平日・午前／保育付き）
- ・子どもとの上手なコミュニケーション講座（幼稚園・保育園等出前講座）
6か所 118人（平日・土曜日）
- ・思春期世代の保護者向けストレスマネジメント講座 129人（平日・夜間）

※NP（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラム講座

「完璧な親なんていない」というメッセージのもとに作られた、カナダ生まれの親支援プログラムで、保護者同士の交流をベースとしたグループワーク方式の連続講座。

<成果及び今後の取組等>

- 「就学時家庭教育講座」を実施することで、家庭教育の基本的な事項、学校との関わり等の保護者が共通に知ってもらいたい内容について、理解を深めることができた。今後も保護者が集まる機会を利用し、保護者の意識啓発を図る。（青少年育成課）
- 「お手伝い通信」を定期的発行したり、ポスターコンクールを実施したりすることで、子どもが家庭で決められた仕事や手伝いを継続的に実施することの有用性や必要性について広く周知することができた。今後も、親の意識啓発を図るとともに、家庭における子どもの望ましい成長を応援していく。（青少年育成課）
- 「親も育つ子育てセミナー」は、参加者が毎回定員近くに達しており、継続的な学びの場を提供することができた。また幼児期コース受講者の約4割が児童・思春期コースも続けて受講しているため、今後も、引き続きニーズの高い専門的な内容でプログラムづくりに努めると共に、関係団体と連携した講演会の開催、夜間コースの新設、必要な科目のみを受講できる単独受講を認めるなど、多様なニーズに対応していく。（青少年育成課）
- 「NPプログラム講座」等は、いずれもアンケートの回答内容から参加者の満足度が感じられる結果が得られた。今後も、保育園や子育ての駅での出前講座や、NPプログラムなど多彩な講座を継続していく。（子ども家庭課）

9) これから親になる世代に「いのち」の大切さ、子育ての楽しさ、喜びを伝える施策の充実（担当：子ども家庭課）

<平成30年度の取組>

- 中学生を対象に、乳幼児や親子とのふれあい等を通じて命の大切さや子育てについて学ぶことにより、自尊心や自己肯定感を育むとともに、やがて自身も大人となり自立していくという意識の醸成を図る「思春期向け次代の親育成事業」を実施した。
 - ・中学校2年生 2校2クラス 36人参加
 - ・中学校3年生 5校13クラス 439人参加

＜成果及び今後の取組等＞

- 事業実施前と実施後のアンケートにより、「幼い子への愛おしさや命の大切さを感じる事ができた」と答えた割合が8.4%、「自分自身がすきだ・まあすきだ」と答えた割合が22.2%上昇し、事業実施の効果を図ることができた。今後も、なるべく多くの生徒が体験できるよう事業の充実を図っていく。

3 質の高い教育の推進

1) 熱中！感動！夢づくり教育の推進（担当：学校教育課）

＜平成30年度の取組＞

- 平成30年度も、「どの子にも分かる授業の実現」、「地域の力、市民の力を生かした教育の推進」、「熱中・感動体験の充実」の3つの方策のもと、熱中！感動！夢づくり教育を推進した。児童生徒に豊かな体験と確かな学びで夢を描き志を立てる力と生き抜く自信を育むことを目指して、関係機関等と連携しながら合計75事業を実施した。
- 熱中！感動！夢づくり教育の取組を市民等に周知するため、パンフレットを作成・配布した。保護者向けに特化したパンフレットの作成・配布についても、昨年度に引き続き行った。また、熱中！感動！夢づくり教育をより広く周知するため、フェイスブックを活用し、さまざまな事業の発信を行った。

＜成果及び今後の取組等＞

- 全75事業を通して、多くの児童生徒に熱中・感動体験やどの子にも分かる授業を経験してもらうことで、社会性とコミュニケーション能力や、ふるさと長岡への愛着や誇りを土台に社会に貢献できる資質・能力を育むことを支援することができた。
- 熱中！感動！夢づくり教育の取組を教育関係者・保護者等にパンフレットを通じて広く周知することで、市の目指す教育について理解・関心を深めることに効果が得られた。今後も、熱中！感動！夢づくり教育を紹介するフェイスブックを最大限活用し、更なる周知に取り組む。

2) どの子にも分かる授業の実現（担当：学務課・学校教育課）

＜平成30年度の取組＞

- 六日市地区から2小学校の統合を望む要望書が提出されたことを受け、平成29年度末に六日市小学校と山谷沢小学校を閉校し、平成30年4月1日に岡南小学校を開校した。（学務課）
- 中野俣地区から中野俣小学校の統合を望む要望書が提出されたことを受け、平成29年度末に中野俣小学校を閉校し、平成30年4月1日に栃尾南小学校に統合した。（学務課）
- 学習指導、生徒指導等の補助業務を行い、教育活動の充実を図るため、教育補助員47人を配置した。（学校教育課）

- ・小学校26校（26人）、中学校21校（21人）
- 外国語を通して、国際社会に通用する表現力やコミュニケーション力を身に付けさせるため、英語指導助手（ALT）と英語指導員（JTL）を全小・中学校に派遣した。（学校教育課）
 - ・小学校 低学年 4時間、高学年35時間
 - ・中学校 全学年 2週間に1回程度
- 様々な知識・技術等を持った専門家を学校に招いて豊かな体験と学ぶ楽しさを提供するため、地域の人材や市民協働課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいた。（学校教育課）
- 児童に体を動かすことの楽しさを味わわせ、運動への興味・関心を高めるため、小学校の体育授業に専門的な知識や経験、技能をもつ指導員をアシスタント指導者として派遣し、コーディネーショントレーニング※を取り入れた「ながおか元気ッズプログラム」を実施した。（学校教育課）
 - ・派遣校数 小学校28校

※コーディネーショントレーニング

状況を目や耳等の五感で察知した後、筋肉を動かす一連の動きをスムーズに行うなどの能力を高めるための運動方法。

- 教育センターでは、「どの子にも分かる授業の実現」に直結する教職員の人間性や専門性を高めるため、教員サポート錬成塾、研修講座、要請研修などの研修事業を実施した。（学校教育課）

<成果及び今後の取組等>

- 学校規模適正化に向けた基本的な考え方にに基づき、今後も、地域からの要望を尊重するとともに、地域関係者への十分な説明を行い、学校規模適正化を進める。（学務課）
- 学習指導や生徒指導等において特に支援が必要とされる学校に教育補助員を配置したことにより、チームティーチングや個別指導が充実し、児童生徒の学習規律の定着や学習意欲の向上にも成果が見られた。（学校教育課）
- 派遣しているJTLが、教科化に向けて大きく変わる外国語活動の動向を踏まえて、授業づくりのサポートを学級担任にマンツーマンで行ったことにより、学校から高い評価をいただいた。令和元年度より小学校の全クラスへのALTの派遣を行う。（学校教育課）
- 「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ2,098人以上の指導者が教育活動に参画し、豊かで多様な体験活動を実施することができた。（学校教育課）
- 体育授業に専門的な知識・技能をもつアシスタント指導者を派遣し、運動能力に関わらず、楽しみながら学ぶことで、「体幹からしっかり体を動かすことができた。」「回数を重ねるにつれて、子どもたちの動きの精度が高まった。」等の効果があった。（学校教育課）
- 教育センター研修講座には、延べ3,346人の教職員の参加があった。また、各

校からの依頼に基づき161回の要請研修を実施した。研修講座、要請研修を通し、教職員の資質・指導力の向上が図られ、分かる授業の実現につながった。今後も、新学習指導要領へ対応する研修講座、要請研修を行う。(学校教育課)

- 教育センター錬成塾では、錬成塾ベーシック(基礎・基本)コースに47人、クリエイティブ(応用・発展)コースに49人の教職員が参加し、嘱託指導主事のマンツーマン指導の下、人間性と資質を高めた。(学校教育課)

3) 地域の力、市民の力を生かした教育の推進(担当: 学校教育課)

<平成30年度の取組>

- 開かれた学校づくりを推進するため、中学校区単位で地域連携フォーラムを実施した。また、第17回いきいき教育推進懇談会では、学校と地域が連携した取組事例の発表とグループ協議を行った。

- ・地域連携フォーラム(27中学校区全部でそれぞれ実施)
- ・いきいき教育推進懇談会(11月30日 アオーレ長岡・アリーナ 保護者、教職員、地域連携を推進する地域住民等約300人が参加)

テーマ「「小中共通課題解決」を支える地域との連携～「コミュニティスクール」ならぬ「コミュニティ青葉台中学校区」」

連携事例発表: 青葉台中学校区(宮本小・大積小・青葉台小・青葉台中・宮本地区・大積地区・青葉台/陽光台地区)の取組

- 地域と学校が連携して長岡の子どもたちを育てるため、地域の人材や市民協働課作成の生涯学習人材バンク「まちの先生」などの中から指導者を学校へ招へいた。

<成果及び今後の取組等>

- 地域連携フォーラムは、各中学校区の実情に応じたテーマ・内容を設定することにより、保・幼・小、中学校の保護者・教職員及び地域の教育等関係者が参加し、連携意識を高めることができた。また、いきいき教育推進懇談会の参加者は、「中学校区の活動事例が大変興味深く、参考になった。」など自校や自地域での取組に生かすよう考えを深めていた。グループ協議では、様々な立場の方々で構成したメンバーでの情報交換の後、同じ地域の方々で構成したメンバーでの意見交換を行う2部構成の形態で行うことで、いろいろな地域での取組や課題を持ち寄って、自地域での取組に生かすよう意見交換を行った。今後もグループ協議を取り入れるなどして、長岡全体で学校・家庭・地域が連携した取組を充実させ、子どもの健全育成と地域の活性化につなげる。

- 「まちの先生」として、体育や総合的な学習、特別活動の時間等に延べ2,098人の地域の人材が教育活動に参画することで、地域の力や市民の力を生かした教育を推進することができた。

4) 「熱中する」「感動する」「夢につながる」熱中・感動体験の充実

(担当：学校教育課)

<平成30年度の取組>

○熱中！感動！夢づくり教育の3つの大きな柱の1つである「熱中・感動体験の充実」（全53事業）を4つに体系化して実施した。

- ・個性・能力を伸ばす事業 25事業
- ・感性・情操を豊かにする事業 7事業
- ・地域・自然を愛する心を育む事業 14事業
- ・社会の一員としての意識を高める事業 7事業

<成果及び今後の取組等>

○「プログラミング教育推進事業」では、ロボット型情報端末（ロボホン）を活用したプログラムを体験する出前授業を、令和2年度の小学校の新学習指導要領全面実施に先駆けて実施した。希望した小学校は48校で、延べ104回、2,843名の児童が出前授業を受けた。また、1月19日、20日にアオーレ長岡市民交流ホールを会場に「プログラミング基礎講座」を開催した。対象とする小学3～6年生から多数の応募があり、2日間で延べ111名の参加があった。事後のアンケートでは、「どうすると自分の思っている動きができるのか考えてプログラミングする中で、論理的な思考力が培われた。」など、教員、児童、保護者の感想は、共にほぼ100%の肯定的評価が得られた。

○学校・子どもかがやき塾事業の夢企画事業特別枠を利用し、熱中・感動体験として、アルビBB「ながおか夢授業」を新たに実施した。小学校4校、中学校1校の計5回実施し、「夢を叶えるための努力をしっかりとしていてすごいと思った。」、「長岡花火や雪に驚くことを知って改めて長岡はいいところだと思った。」など、夢や目標に向かって努力することの大切さや、ふるさと長岡への愛着や誇りに気づく機会となった。

○「夢づくりスポーツ推進事業」では、対象を市内在住の全小・中学生に拡充し、19種目の競技において、スポーツに親しむきっかけづくりの場としての入門体験プログラムと専門性の高い指導者から高度な指導を受ける機会であるアカデミープログラムを設定した。各種目に約4,000人が参加し、幅広くスポーツに親んでもらうことができた。

○個々の事業については、成果及び課題、参加数、参加者の声などを参考に、実施の可否を含め、目的、実施時期、内容等の見直しを行い、より一層の充実を図る。

5) 学校施設の計画的な改修などによる、安全・安心で快適な教育環境の整備 (担当：教育施設課)

<平成30年度の取組>

○安全・安心で快適な教育環境を整備するため、校舎の大規模改造等の工事に着手した。

- ・越路小学校校舎増築工事
（平成30年度単年度事業）
- ・越路小学校校舎等大規模改造工事
（平成30年度から令和元年度までの継続事業）
- ・西中学校校舎増築・大規模改造工事
（平成30年度から令和2年度までの継続事業）

○快適な教育環境を整備するため、トイレ改修工事及び冷暖房設備改修工事を実施した。

- ①トイレ改修工事 5校
- ②冷暖房設備改修工事 9校

<成果及び今後の取組等>

○老朽化の進行や教室が不足する学校について、大規模改造及び増築工事に着手したり、トイレの洋式化と衛生環境の向上を図り、子どもたちの快適な利用を実現するため、トイレ改修工事を実施したり、夏期の学習環境を改善し、熱中症予防や学力向上につなげるため、冷暖房設備改修工事を実施したりした。今後も適切な整備を計画的に進め、安全・安心で快適な教育環境を整備していく。

6) 通学路における児童・生徒の安全確保（担当：学校教育課）

<平成30年度の取組>

○登下校時の通学路及び校区における児童生徒の安全確保を図るため、セーフティーパトロール事業等を推進したほか、学校や警察から報告を受けた不審者情報を小・中学校及び関係機関に提供した。

- ①警察・道路管理者・教育委員会・学校（地域）合同の通学路合同一斉点検の実施 全小学校区（小学校55校区）
- ②通学路点検の実施 全中学校区（中学校27校区）
- ③地域住民によるセーフティーパトロール団体数 55団体
- ④学校教育課が小・中学校、関係機関へ提供した不審者情報 27件

<成果及び今後の取組等>

○通学路の合同一斉点検により、通学路のハード面の安全対策が大きく進んだ。
○市内55小学校区でセーフティーパトロール団体等による子どもの安全を守る活動が実施された。

7) 食物アレルギー対応の充実などによる健康で安全な学校生活の推進（担当：学務課）

<平成30年度の取組>

- 教育委員会（学務課・保育課）主催の食物アレルギー研修会を年2回実施した。
 - ・第1回（平成30年7月19日）参加者 教職員等86名 保育関係者等114名
 - ・第2回（平成30年11月27日）参加者 教職員等49名 保育関係者等20名

○学校給食における食物アレルギー対応について、市内アレルギー専門医、栄養教職員・養護教諭・学級担任・学務課職員で検討会を実施した。

○学校の給食だより等で食物アレルギーに関する情報を保護者に提供した。

＜成果及び今後の取組等＞

○食物アレルギー研修会では、全教職員を対象とした基礎知識の研修と、アドレナリン自己注射薬が処方されている子どもが在籍する園・学校を対象とした救急対応実技研修を行ったため、教職員等の知識や救急対応の実践力を高めることができた。また、学校生活すべての場面において、食物アレルギーをもつ子どもが安全に過ごせるよう、専門医と連携して、各学校に備える長岡市学校保健の手引きのうち、食物アレルギーの内容を整理するなど、見直しを行った。

今後、教職員等を対象とした研修等を充実させ、学校給食における誤食を防ぐ全校体制づくりと緊急時における迅速かつ適切な対応に努めていく。

○今後も日常的に保護者と連携し、家庭での食事や学校給食等で新たに食物アレルギー症状が出た場合には、医師の指示や保護者との面談に基づき学校での対応を決定する。また、誤食が発生した際には原因を追究し、再発防止策を学校と検討していく。

○家庭科など食物アレルギーに関連する教科の学習を通じて、子ども自身にも食物アレルギーの知識を深めさせ、自ら対応できる力を育てるような取組を進めていく。

8) 子ども、保護者、学校・教職員などへのサポート体制の充実

(担当：学校教育課)

＜平成30年度の取組＞

○「子どもふれあいサポート事業」において、いじめをはじめとする問題行動・不登校・児童虐待など、子どもをめぐる様々な問題への対応を実施した。

①サポートチームの活動 82ケースに対応

・サポートチーム会議（関係機関との連携） 54件

・サポートチーム会議（要対協との連携） 28件

②「子どもサポートコール」相談件数 174件

③適応指導教室（「長岡フレンドリールーム」、「栃尾やまびこルーム」、「寺泊はまちゃん教室」、「おぐに日だまりルーム」）の設置及び訪問相談員の派遣

④心ふれあい相談員の学校への派遣 20人27校へ派遣

○不登校児童生徒の学校復帰を支援するため、適応指導教室の運営や訪問を実施するとともに、教育相談の充実を図った。

○心のケアを必要とする児童生徒への適切な支援が学校全体で行われるよう、教職員の資質向上を図った。

＜成果及び今後の取組等＞

○困難な事例に対して、各関係機関がより専門的な立場で関わることで、明確に役割を分担し、迅速で適切な対応を取ることができた。今後も更に連携を

深めるため、相談機関の実務担当者による相談会を定期的を実施する。

- 適応指導教室では、児童生徒の状況に応じて、学習以外にも体験活動や人間関係づくり等の多様な活動を行い、児童生徒の適応を促すことができた。更に学校との連携を深め、適応指導教室の通級や訪問相談につなげる。
- 教育センターで教育実践講座を実施し、教職員の資質向上を図った。子どもサポートカウンセラー（臨床心理士）との連携により、質の高い支援を行う。

9) 特別な支援を要する子どもへの支援体制の整備とインクルーシブ教育システム^{*}の充実（担当：学校教育課）

※インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

<平成30年度の取組>

- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援を充実させるため、介助員等の人的支援や特別支援学級の新增設等環境整備の充実を図った。
 - ①特別支援学級の新增設 小学校15学級、中学校12学級
 - ②総合支援学校・高等総合支援学校への介助員・作業支援員・看護師の配置
介助員21人、作業支援員9人、看護師3人、代替看護師5人
 - ③特別支援学級への介助員の配置 59校105人
 - ④通常学級への特別支援介助員の配置 20校 22人
- 合理的配慮の提供の視点をもとにインクルーシブ教育システムがより充実するよう、インクルーシブ教育システムコーディネーターが市内全学校を訪問し、指導した。
- 保・幼、小、中学校が連携して保護者との合意を重視した就学相談を行うため、各中学校区に専門相談員を依頼し、専門相談員が中心となった就学相談の充実を図った。また、関係課と連携して就学校にエレベーターの設置を決定するなどして、学校環境の整備・充実にも取り組んだ。
 - ①専門相談員の依頼 111人
 - ②就学に関する相談件数 455件（前年度392件）
- 教育、福祉、医療、労働をつなぐ拠点である総合支援室において、総合支援コーディネーター1人、専門の嘱託員2人が関係機関と連携しながら、卒業生を含めた児童生徒の生活支援・就労支援の充実を図った。また、早い段階から継続した支援が受けられるよう、学校教育課が相談窓口となり、各専門機関をつなぐ体制を整えた。
- 専門相談員による就学相談の進め方や合理的配慮提供の考え方などをわかりやすくまとめた「教育支援ハンドブック」を作成し、各校へ配付した。

＜成果及び今後の取組等＞

- 介助員の配置や特別支援学級の新增設により、特性に応じたきめ細かな指導・支援を行い、自己肯定感を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や社会性の向上等の成果が見られた。
- 市内全学校で、合理的配慮の提供に確実に取り組むことができた。今後、各校のインクルーシブ教育システムがより充実していくよう、学校訪問を通じた継続支援に努める。また、中学校区による連携を深め、切れ目のない特別支援教育を継続していくために、中学校区相談会や、特別支援学級の授業づくり研修会を推進する。
- 肢体不自由特別支援学級等の在籍児童生徒のニーズに対応し、丁寧な就学支援相談により施設整備が充実するなど、適切な合理的配慮が行われた。
- 総合支援室では、延べ2,471人からの相談に対応した。相談内容によっては、課題が複雑化したり長期化したりするケースがあるため、必要に応じ、関係機関の連携強化により一層取り組み、充実したサポートに努める。
- 教育支援ハンドブックを有効に活用し、インクルーシブ教育システムの理解啓発や、各種手続きの明確化、効率化を図る。

10) 私学の振興と家庭の教育費負担軽減（担当：学務課）

＜平成30年度の取組＞

- 私立高校就学者の保護者の経済的負担を軽減するため、学費の助成を行った。また、市内の私立高等学校3校に対し、運営費を補助した。
 - ・学費助成金総額 9,768,000円
 - ・運営費補助金総額 19,208,000円

＜成果及び今後の取組等＞

- 私立高校就学者の保護者に対する経済的負担軽減や、私立高等学校の健全経営のための支援を継続していく。

11) 長岡市SNSセーフティープログラム[※]に関する取組

（担当：学校教育課・子ども家庭課・保育課・青少年育成課）

※長岡市SNSセーフティープログラム

情報モラル教育の確実な取組を推進し、子どもたちの生活習慣のみだれやインターネットの不適切な利用、SNSによるトラブルを未然に防止するため、子どもの発達段階に応じて啓発活動等を体系づけたプログラム。

＜平成30年度の取組＞

- 全小中特別支援学校から教職員が参加し、学校ルールづくりや家庭のルールづくりについて、東中学校と中央公民館の実践例をもとに研修会を開催した。教職員がSNS時代に必要な情報モラル教育についてどう学校体制を組織していけばよいかを学び、各校の取組に生かした。（学校教育課）
- 情報モラルNavi（授業案や資料等）等を活用した授業を各学年1回以上

実施した。(学校教育課)

- 市生徒指導研究会が市内小学校4年生から中学校3年生の児童生徒を対象に実施した「家庭生活実態調査」の中で、SNSの利用実態等について調べた。(学校教育課)
- 「広めよう！市P連ルール※ 啓発標語コンテスト」の入賞標語を学校教育用パソコンへモラルメッセージとして配信した。(学校教育課)

※市P連ルール

長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会が策定したSNS利用のルール。

- 子育ての駅等での講座や、こんにちは赤ちゃん訪問、赤ちゃん相談、1歳6か月・3歳児健診時にリーフレットを配布し、親子のふれあいの大切さや家庭でのメディアとの望ましいつきあい方を伝えた。(子ども家庭課)
- 外部講師を招いた保護者向けの講座を開催し、スマートフォンやSNSの利用について学習した。(保育課)
- 就学時健康診断などの保護者が集まる機会を活用した「就学時家庭教育講座」において、子どものSNSやゲーム、テレビ等のメディアとの関わりについて講義し、周知を図った。(青少年育成課)
- 小・中学生の子を持つ親向けの子育て講座「親も育つ子育てセミナー」児童・思春期コースにおいて、子どもを取り巻くインターネットやスマートフォン利用の現状について、各講座の中で注意喚起を行った。(青少年育成課)
- 子どもたち自身にSNSの危険性や望ましい使用方法を知ってもらうため、PTA連合会主催の「第2回 広めよう市P連ルール啓発標語コンテスト」をPTA連合会と連携しながら取り組んだ。(青少年育成課)

<成果及び今後の取組等>

- 教職員へ研修会を開催したことにより、多くの学校でのSNSの危険性と望ましい利用の仕方についての学習会や講演会の開催や、いじめ見逃しゼロスクール集会での意見交換等につながった。その結果、児童生徒・保護者がSNSの適切な利用の仕方について学ぶことができた。(学校教育課)
- 次年度も教職員向けの研修会を実施し、教職員の意識を高め、各校での具体的な取組や情報モラル教育の推進につなげていく。(学校教育課)
- SNS利用の「市P連ルール」のパソコンへの表示、情報モラルに関する授業により、児童生徒・教職員のSNSの適切な利用に対する意識を高めることができた。(学校教育課)
- 市生徒指導研究会の「家庭生活実態調査」で得られたSNSの利用実態等のデータから、自校の傾向と課題を把握したり保護者等と共有したりし、各校の具体的な対応や指導に活用していく。(学校教育課)
- 乳幼児の保護者への啓発活動に引き続き取り組む。(子ども家庭課)
- 外部講師を招いた保護者向けの講座(「幼児家庭教育講座」)の開催により、家庭等でのスマートフォンとのつきあい方の理解を深めることができた。(保育課)

- 「就学時家庭教育講座」や「親も育つ子育てセミナー」での講義、「市P連ルール」の各啓発活動を通じて、子どものSNS利用に関する注意事項など、多くの保護者や子どもの理解を深めることができた。今後も保護者が集まる機会等を利用し、更なる意識啓発を図る。(青少年育成課)
- 「長岡市SNSセーフティープログラム」について、今後も、各課及び関係機関が連携して実践することにより、情報モラル教育の確実な取組を推進していく。(学校教育課・子ども家庭課・保育課・青少年育成課)

4 生涯にわたるまなびの場の充実

1) 市民主体の生涯学習の推進、学習環境の効果的な整備

(担当：中央図書館・科学博物館)

<平成30年度の取組>

- 中央図書館の自主企画展「画業50年 長岡の自然に育まれた松岡達英」展では、16日間で3,643人の入場があった。所蔵資料展「江戸時代の長岡」では長岡藩関連の資料161点(市指定文化財16点を含む)を公開し、22日間で3,672人の入場があった。また、ながおかネットミュージアムに、北越戊辰戦争関係絵図など14件追加した。(中央図書館)
- 図書館開館100周年イベントとして、林真理子講演会「私の仕事から」を開催し、約1,300人が参加した。講演に先立ち、長岡市立図書館の歴史と現在の図書館の様々な活動を紹介する映像を上映した。(中央図書館)
- 展示・研究の基礎となる収蔵資料の保管環境整備やくん蒸・修復等の資料整備、植物の亚克力樹脂封入標本等の新規展示物制作等を通じて学習環境の整備を行った。また、馬高縄文館で縄文土器の精緻な修復を行い、展示内容の向上を図った。(科学博物館)
- 更なる資料の活用を目指して、寺泊民俗資料館の展示作業を継続した。(科学博物館)

<成果及び今後の取組等>

- 中央図書館では、今後も所蔵資料を活用した魅力的な展示会を実施していく。また、中央図書館の貴重資料について、デジタル化・公開をしていく。(中央図書館)
- 集客力の高いイベント開催と、資料の充実により、図書館利用者の拡大を図った。また、オンラインデータベースサービスの年間利用件数が202件あった。今後も、HPやチラシを活用して、課題解決に向けた図書館の便利な使い方をPRしていく。(中央図書館)
- 博物館等の設備・展示について、学習環境を充実することができた。今後も、来館者の反応に目を向けながら、学習意欲の増進につながるような整備に努めていく。(科学博物館)
- 寺泊民俗資料館については、平成30年8月18日にリニューアルオープンし、

3月末までに、38,825人の来場者があった。今後も更なる資料の活用を目指して、整備を進めていく。(科学博物館)

2) 民間活力を基にした互尊文庫創設の精神を継承し、新たなまちなか図書館を整備(担当:中央図書館)

<平成30年度の取組>

○中心市街地整備室が中心となり、まちなか図書館を含めた複合施設である米百俵プレイス(仮称)の基本設計について検討した。

<成果及び今後の取組等>

○今後は、「人づくり・学び・交流」をキーワードとした図書館機能を含む複合施設の実施設設計や互尊文庫の移転について更に検討する。

3) 市民の主体的・創造的な文化芸術活動への支援(担当:中央図書館)

<平成30年度の取組>

○栃尾美術館において、長岡ゆかりの作家を紹介する「長岡の彫刻家 近藤邦雄遺作展」のほか、「池田光宏展 きっとそれも誰かの仕業」、箱根ドールハウス美術館から作品を借用した「ミニチュアワンダーランド ドールハウスの世界展」などの展覧会を開催した。また、気軽に美術に親しめるワークショップ「夏休み☆まいにち工作」、作家から本格的な技法を学ぶ造形講座など、年間を通して美術館で文化・芸術に関わるイベントを開催した。中央図書館美術センターでは、自主企画展の開催や文化芸術活動の発表の場として市民への貸出を行った。

<成果及び今後の取組等>

○埋もれていた郷土の作家の掘り起こしを行い、市民に広く周知した。また、ドールハウス展のように気軽に訪れることのできない遠距離にある美術館の持つ貴重な作品を紹介し、身近な場所でさまざまな文化・芸術にふれる機会を提供した。今後も、開催することに意義のある展覧会や普及活動の企画を目指していく。

令和元年8月19日

長岡市教育委員会
教育長 金澤 俊道 様

長岡市教育委員会事務評価委員会
委員長 青柳 良一
副委員長 渡辺 美子
委員 高野 真規

教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価について

平成30年度に執行された長岡市教育委員会の会議、施設訪問、事務事業の内容及びその点検結果について、教育長並びに事務局職員からヒアリングを行い、長岡市教育委員会事務評価委員会として点検、評価を行った。

当委員会の点検、評価結果については以下のとおりである。

●全体を通しての意見

- 「長岡市教育振興基本計画」の各施策に基づき、全体的にきめ細やかな取組が着実かつ丁寧を実施されており、ほとんどの取組において成果を挙げている。今後も、社会環境の変化や市民の要望等に適切に対応できるように市民目線を大切にしたい取組を期待したい。
- 熱中・感動・夢づくり教育や子育て支援など、教育や子育てに向けた様々な施策が実施され、「米百俵のまち」、「子育てしやすいまち」が具現化されてきている。
- 教育や子育てに関する支援は、ますます多様化、複雑化するため、組織横断的な幅広い対応が必要となってくることから、より一層、部署間や市民団体、専門家等との連携を密にしてほしい。
- 今後、限られた財源の中で、これまでのようなきめ細かなサービスや支援を持続していくためには、本来、教育行政が担うべき業務範囲を明確化し、外部に任せられるものは、地域住民、NPO、民間企業などの活用をさらに進めてほしい。また、それにより、教職員や保育士、教育委員会関係職員の多忙化の解消にもつながるものとする。

●各施策についての意見

I 教育委員会の開催及び審議状況等について

教育委員と事務局との連携がよくなされており、情報共有も速やかに行われている。

定例会や臨時会は、会議録が市ホームページに審議の内容がわかりやすく公開されており、審議の透明性を高めている。また、会議録の内容から、議論が活発に行われ、慎重審議がなされていることがわかる。

学校訪問では授業参観や職員懇談等が実施され、学校現場の課題の把握に努めている。また、新たな取組として、「施設訪問の日」を設け、タイムリーで話題性のある事業を視察し、教育委員により教育現場の現状を把握してもらおうとする努力は評価できる。

教育委員会行事や各課の実施事業、学校周年事業など多岐にわたる積極的な事業参加、さらに研修会に参加するなど、学び行動する教育委員の姿が認められる。

総合教育会議が開催されなかったが、市長と教育委員がテーマを絞って話し合うことは大きな意義があるため、年1回は開催してほしい。

II 教育委員会における事務の点検・評価について

1 郷土愛の醸成による人材の育成

冊子「ながおか学」について、随時新しい項目を追加し、各校が実践している活用方法を紹介する取組を行い、地域性や学校の独自性を生かした活用の充実を図ったことは評価できる。今後も、必要に応じて、地域ならではの歴史を研究する個人や団体を活用するなど、子どもたちが、より身近な歴史を知り、郷土の歴史に興味を持ち、故郷を愛するきっかけにしてほしい。

長岡独自の人材育成の礎である「米百俵の精神」の普及・啓発に、子どもにも理解できるDVDアニメを活用しており、成果を挙げている。

大英博物館との火焰型土器展示を通じた交流は、長岡の歴史、文化の発信に役立つ事業であり評価できる。

文化財のホームページでの公開や紹介冊子の配布等を通して、価値や魅力を発信することに努めている。また、旧長谷川家住宅では、地域内で伝統文化を伝承する団体等とのコラボレーション企画が生まれており、新たに歴史に興味を持つ市民の増加につながったことは評価できる。

科学博物館における特別展や講演会の開催は、科学博物館がより身近に感じられるきっかけとなっており、子どもたちに豊かな自然・歴史・文化に触れる機会を提供している。また、長岡開府 400 年という機会を捉えて企画を展開し、市民への興味を促したことは良かった。

後世に伝えるべき中越大震災の写真資料を国立国会図書館のデータベースに掲載したことや、長岡市資料整理ボランティアとの協働により、多くの歴史資料を新たに公開できたことは評価できる。

戦災資料館の見学や平和劇の発表など各学校ごとに工夫した取組がなされ、平和学習の広がりや深化が著しい。平和教育は、グローバル社会で生きる子どもたちにとって重要であるため今後も推進してほしい。

青少年の健全育成活動の推進について、人口減により、子どもたちの交流が少なくなっているため、リーダー育成を事業として行うことは重要であることから引き続き取り組んでほしい。また、「子どもフェスティバル」など集団活動や体験活動の実施により、子どもたちに自立性と社会性を育む場の提供は重要であり一層の充実を望む。

2 子ども・子育て支援の充実

母子保健推進員との連携により、乳幼児や妊産婦への支援が切れ目なく、きめ細やかに支援が行われている点は評価できる。また、産前産後支援の利用実数から、多くの母親に周知されていることがわかり、必要な支援の充実につながっている。特に、急用や育児疲れなどの理由でも一時保育を利用できる子育ての駅千秋「てくてく」や子育ての駅「ちびっこ広場」があることで、母親た

ちの心は救われている。

一方、支援先に行くことができない母親への支援については、乳児期における長岡市独自の対策の充実や、参加者同士が交流を図る「親子サークル」への支援の充実・連携強化策が必要である。また、核家族化が進んでいる中で、母親の子育てへの負担が非常に大きいため、妊産婦の支援に留まらず、父親や家族への支援も充実してほしい。さらに、行政内部で連携し、企業に対して、男性の育児休業や育児と仕事の両立についての意識改革を進めてほしい。

「こども発達相談室」、「家庭児童相談室」、「特別支援教育ガイダンス」など、特別な支援が必要な子どもや家庭に対する相談対応が充実していて評価できる。また、発達障害に関する理解と支援のための研修会が実施され、職員だけでなく保護者からの参加も得られたことは良かった。今後は、更に市民団体等と連携して、当事者だけでなくその他の保護者からも、より多く参加してもらおう工夫をお願いしたい。

各種援助費の拡大や保育料軽減により、子育て家庭への経済的負担が軽減されたことは、子どもの貧困対策にもつながると考える。子どもの貧困問題など、各家庭内の事情を把握することは難しいため、子どもナビゲーターは主任児童委員などの地域の福祉関係者と連携し、子どもの健やかな育ちを支えるネットワークを強化してほしい。

子育て支援員の認定講習会が実施され、新たな支援員が認定されたことにより、園児の受け入れ増加が図られたことは評価できる。引き続き、フォローアップ研修等の充実により、支援員の資質向上に努めてほしい。

各種特別保育が実施され、多様化する保育ニーズに対応がなされており、安心して子育てができる環境を整えていることは評価できる。認定こども園移行への環境整備に対し、財政的支援が手厚くされている。また、延長保育は利用者が増えており、利用ニーズが高いため、今後も利用者のニーズや社会環境の変化を見ながら対応してほしい。

放課後発達支援コーディネーターの配置は、児童クラブを運営する上で、児童厚生員にとって心強いことから、配置強化について検討してほしい。また、児童クラブは低学年優先で受け入れていることから、高学年は児童クラブに行きたがらなかったり、地域によって高学年の受け皿の確保が難しかったりする状況があるため、どの学年の児童にも安心して過ごせる場の提供をお願いしたい。

子育ての駅を運営するにあたって、様々な年代の市民から子育ての駅サポーターとして協力を得るなど、市民参加型の運営がなされている点については評価できる。

「親も育つ子育てセミナー」や「NPプログラム講座」など子育て講座が充実しており、学びの継続も図られている。

赤ちゃんとのふれあいを通じて命の大切さを学ぶ「思春期向け次代の親育成事業」が次第に定着してきていて、子どもたちが将来、良き親となるための有効な事業であり評価できる。

3 質の高い教育の推進

「熱中！感動！夢づくり教育」により、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力、ふるさと長岡への愛着や誇りなどが育まれてきており成果を挙げている。また、各機関が連携して事業に取り組んでいるところや広報活動の工夫により、広く市内外に周知され浸透が図られているところが評価できる。

教員サポート錬成塾や要請研修など多様な研修の場が用意されており、教職員の人間性や資質・指導力の向上が図られ、わかる授業の実現につながっている。また、教育補助員の配置や外部専門家の派遣により、教職員の業務負担軽減の配慮がされている点も評価できる。とりわけ、外部専門家の派遣については、子どもたちは、学校の先生以外の大人から学ぶことで、緊張感や新鮮味を感じられるため、引き続き取り組んでほしい。

「地域連携フォーラム」や「いきいき教育推進懇談会」の実施により、地域全体で子どもたちを育て見守る連携意識が醸成されてきている。今後は、コミュニティスクールへの移行を見据えた形でさらに推進していく必要がある。また、地域と学校の連携に関しては、「まちの先生」だけでなく、地域を知る大人、研究を重ねている大人、地域を盛り上げようと活動する団体などの活用についても考えてほしい。

熱中・感動体験の事業が多く実施されており、とりわけ「プログラミング教育推進事業」、「プログラミング基礎講座」は、新学習指導要領の先駆的な取組であり評価できる。また、「ながおか夢授業」にアルビBBが加わり、より充実した授業となっている。

大規模改修やトイレ改修、冷房設備の充実など安全・安心で快適な教育環境整備に努めている。

通学路における児童・生徒の安全確保については、地震や風水害など自然災害時における危険箇所等を把握することが大切である。今後は、把握した危険箇所等を子どもたちに周知することや地域全体で情報を共有できるシステムの確立が求められる。

食物アレルギーへの対応について、専門医と連携してマニュアルを作成していることは意義がある。今後も、各学校がどのようなアレルギー対応の工夫をしているか把握し、研修会等で情報共有をお願いしたい。さらに、食物アレルギーの対応に関する知識を元に、食物に限らず多様なものにアレルギー反応が発生し得ることも理解して適切に対応してほしい。

また、家庭科など食物アレルギーに関連する教科の学習を通じて、周りの子

どもたちにも食物アレルギーの知識を深めさせることで、相手の立場への理解が深まると評価できる。

熱中症対策については、各学校の実態を把握し、適切な対応をお願いしたい。

生徒指導上の多様な問題に積極的に対応する体制が整えられている。また、「子どもふれあいサポート事業」では、「未然防止、早期発見、即時対応」の視点を大切にし、専門家も含めた質の高いきめ細かな対応がなされている。

介助員や特別支援アシスタントが各学校に配置され、人的支援の充実が図られており、今後も一層の充実を望む。また、インクルーシブ教育システムコーディネーターの全学校訪問により、「合理的配慮」の提供に努めている。

子どもの高校進学希望が多様化し、私学進学希望者も多い状況の中で、学費助成が行われていることは保護者の経済的な負担の軽減につながっている。また、私学運営費補助金は、市内の私立高等学校の経営の健全性を高めることから継続を望む。

「長岡市SNSセーフティプログラム」に基づき、情報モラルの啓発を子育ての駅やPTAなど、各機関が連携し、あらゆる世代に働きかけ取り組んでいるところが評価できる。引き続き「家庭生活実態調査」によりSNSの利用実態等を把握するとともに、メディアとの関わり方について、不安に感じている保護者が非常に多いため、新しい情報や危険性、望ましい使い方を保護者に対して重点的に情報提供してほしい。

4 生涯にわたるまなびの場の充実

生涯学習の充実については、教育振興基本計画にもあるように、まちなかキャンパス、図書館、博物館など各施設の連携が重要であることから、各施設の特色を生かした展示の充実や企画展の工夫と充実が望まれる。

「人づくり・学び・交流」をキーワードにした「米百俵プレイス」の早期完成が待たれる。とりわけ図書館の役割は大きく、慎重な計画審議を期待するところである。また、「まちぼん」などまちなかでの図書館の取組の際に、本にまつわる情報を提供し、まちなかに図書館ができることをアピールしてほしい。

美術センターや栃尾美術館の企画展が充実しており評価できる。特に、栃尾美術館において、埋もれていた郷土の作家を掘り起こし、長岡ゆかりの作家の紹介を積極的に行い、市民に広く周知しているところは評価できる。また、美術センターは、自主企画展の開催や、芸術活動発表の場として広く市民に貸し出しを行っており、文化芸術活動の普及に役立っている。